

AKP二十五周年記念座談会

同志社とAKP

未来構築にむけて

Ray A. Moore (Amherst College教授)

岡田 妙 (大学言語文化教育研究センター教授)

Anthony Chambers (Wesleyan University教授)

Hiroshi Miyaji (Middlebury College名誉教授)

A. Ronald Takemoto (Whitman College教授)

篠原 総一 (大学経済学部教授、国際センター所長)

司会 釜田 泰介 (大学法学部教授、アメリカ研究科長、アメリカ研究所長)

(発言順・文中敬称略)

AKPのなりたち

釜田 本日はAKP (Associated Kyoto Program) の二十五周年を記念いたしまして皆様にお集まりいただきました。同志社とAKPの交流の二十五年間を振り返っていただきますとともに、将来の展望を語っていただければということでございます。

AKP十周年記念のときにも、やはり同志社大学で座談会をもっております。

これが『同志社大学通信』(第四十四号・一九八三年四月刊)に掲載されているわけですが、そのときは、ここにご出席のムア先生、岡田先生も出席しておられました。それから当時いらつしやいました各加盟大学の学長先生と、日米友好基金を代表されましてアイバン・ホール先生がご出席でございました。そのときのテーマは、「リベラルアーツと国際教育」ということで、リベラルアーツとは何かというところを中心にいろいろな角度から意見交換がなされたようでございます。昨日、

今日(三月二十八、九日)と行われた「国際交流と国際主義教育」に関するセミナーのご報告を伺い、このAKPのプログラムの基礎にはリベラルアーツの理想というものがあつて、その一環として行われてきたのだということをあらためて再確認した次第でございます。国際主義教育とか国際交流ということと同志社のキャンパスから見えますと、二つの流れがあつたように私は感じております。

一つは、一九二〇年代から三〇年代に



AKP 1973-74のメンバー

写真を前列とその他の列とに分けて、その他の列左から4人目ジョン・トリート教授（現ワシントン大学）、5人目ムア教授夫人イルガさん、6人目キャメロン・ハースト教授（現ペンシルベニア大学）、13人目レイ・ムア教授（アーモスト大学）

1974年5月アーモスト館にて撮影

かけてであります。ちょうど第一次大戦の終了後に、戦争の反省とその再発を防ぐために国際主義というものが強く唱えられたようでございます。その一つの成果といえますか、その象徴的な建物がアーモストハウスでございます。あれは昨日岩山大学長がセミナー（AKP二十五周年記念セミナー「国際教育に関するAKP同志社交流会議」）の中で言及されましたように、一九一二年から二〇年代にかけてアーモスト大学をリードしておられましたアレクサンダー・ミクルジョン総長の自由主義教育と、同志社を一九二〇年から率いていました海老名弾正総長の同じような自由主義教育の理念というものが呼応したといえますか、私の聞くところでは、アーモスト大学で海老名総長が国際主義の必要性を当時の学生諸君に説かれたとき、それに呼応して、アーモスト大学は学生代表を同志社に派遣するということを決定されたと伝えられているわけです。その結果、初代のアーモスト大学の学生代表が一九二二年に同志社に参っております。

ですからミクルジョン総長が送り出し



Ray A. Moore

1933年アメリカ生まれ。'53年から'55年までICU(国際基督教大学)に学び、その後シカゴ大学でB.A.(文学士)を取得、ミシガン大学ではM.A. (Master of Arts) と Ph. D. をそれぞれ'60年、'68年に取得。'60年～'62年までは Department of Defence の業務に就き、'62年から'64年までは東京大学にて学ぶ。その後アーモストカレッジの歴史学部 (or 学科) に入る。専門は近代日本史と1945年以降の日米関係。内村鑑三、米国の日本占領に関する著書があり、また Koseki Shoichi の『新憲法の誕生』(1997年)の英訳を手がけた。他に Princeton Univ. Press から発行される "The Japanese Constitution: A Documentary History" (1998) の共編者でもある。

海老名総長が受け入れたということになるんでしょうか、それを記念するタブレットがアーモスト館一階の玄関にかかっておるわけでございますが、タブレットの中に、すでに「ブロード・ビジョン」、広い視野といいますが、そういうことをうたっております。そういう視点から同志社へ貢献された、初代学生代表スチュアート・バートン・ニコルズ氏を記念するタブレットもかがげられております。それを思い出しまして、改めてAKPのプログラムを拝見しますと、その中に学生諸君に他文化に対する理解の機会を与えることによって広い視野を持たすんだという目的が出てくるわけであります。そこで一致点を見出すわけですが、そういう第一次大戦後の国際主義の流れ

というものがあのアーモスト館で試みられたわけですが、不幸にして、その理想は途中で少し中断するという事態になったわけであります。最後の学生代表であられたホール先生が……
ムア そのときの私の教師だった。日本歴史を習ったんですけどね。
釜田 ……後に日本歴史の大家になられた。そういう歴史的な場所であろうと十周年の座談会をなさっているわけであります。
そういう一つの流れが戦前にありました。戦後になりました、第二次大戦の後、また国際主義の必要性というものが唱えられたわけであります。このときは国際連合憲章であるとか国際人権宣言が出てくる形で、かなり制度的に充実化が

図られた訳であります。日本はそのもとで、いまの憲法というものを作り、使いたったわけでありますが、ちょうどそれが今年で五十年になるわけであります。AKPは、振り返ってみますと、その第二の波といえますか、第二次大戦後の国際主義教育の流れの中で生まれてきたプログラムのように思います。本日はそういう流れの中で、AKPと同志社の交流を振り返っていただきたいわけでございますが、ちょうどムア先生は、ただいまスミス大学のロビンソン教授と、ケイデイス大佐が残されました日本国憲法制定過程の資料を分析されてご出版の予定とも伺っております。五十年を振り返っていらつしやる先生のお立場から、ちょうどその半分に当たります二十五年のA

KPについて、創設当時、このような教育というものがアメリカの大学において必要とされる状況があったのかどうか、そのあたりから思い出していただけかもしれません……。

ムア その前に、私の一番はつきりした思い出は六八年の夏のことなんです。アーモスト大学の教務部長ブロッサー・ギフォード。それからブッシュ・モーゲン。彼はその後、カールトン大学にかわって教務部長になられた。もう一人はレオ・マークスというアメリカンスタディーズのかなり有名な方で、彼はMIT（マサチューセッツ工科大学）にかわったんですがね。私は若い助教授として、同志社に来ていたんですけど、ここにアーモスト大学の代表者でオーティス・ケーリー、同志社大学の学長、教務部長、その他の方々が集まったんです、アーモスト館で。六八年の六月、ちょうど大学紛争が起ったときです。そこで大きな教育交換を提案しました。一つは教授の交換、もう一つは学生の交換です。これが私の考えではAKPの始まりだと思っんです。その他のことも提案したんですけども、

やっぱり大学紛争があつて同志社大学のほうがちょっと応じられなかったですね。

ですから六九年ごろは、もうこういう大きな交換はできないので、学生の交換だけやってみませんかと私はブロッサー・ギフォードに頼んだんです。カールトン大学からバードウェル・スミス（スミスさんはそのときカールトン大学の教務部長）と日本歴史を教えていたジョン・ペリさんがアーモスト大学に来た時に、四人でアーモスト大学の学長の家に行っったんです。そこで、何とかしてこういう学生プログラムをつくりたいと話し合った。その後、二、三回ペリさんに会いました。そして大体七〇年からほかの大学の代表者、特にウエスレアン、コネティカット、マウントホリヨーク、それからウイリアムズの代表者らを集めて計画を立てて、要するにAKPができたということなんです。

岡田 そのころアメリカの大学ではすでにヨーロッパの各国へ行くというような制度はありましたか。

ムア ええ、ありましたね。私は六五年

からアーモスト大学の助教授になって、その就職の面接のときには、カルヴィン・プリンプトン学長からアーモスト大学と同志社大学の関係についていろいろ説明してもらったんです。彼の言ったことはいまでもよく覚えています。

“I want a young man who can speak Japanese to come here and help develop the relationship between Amherst and Doshisha”

と言ってくれたんですけども、学長はアーモストと同志社の関係はよく考えていたんですよ。

釜田 一九七二年ですね、正式には。

ムア 正式には七一年の九月二一日です。ロード・ジェフリー・インというところに六つの大学の代表者が集まったんです。ウイリアムズ、マウントホリヨーク、ウエスレアン、コネティカット、アーモスト、カールトンです。その時、ウイリアムズ大学のピーター・フロストはね、“I want to be the first director.”（笑）と手を挙げて志願したんです。それから、彼はこういうおもしろいことを言っったんですよ。

“Fools rush in where angels fear to tread”」。

チェンバース アレクサンダー・ポウプ
(十八世紀の英国詩人)。

ムア そうそう(笑)。それで彼は第二回目のディレクターになった。

釜田 七二年のディレクターですね。

ムア そうです。

釜田 先生は七三年?

ムア いや、ぼくは同じ七二年に同志社大学に來たんですけど、それは研究員として來たんですよ。人文研で一年間の研究をやって、七一年から七三年にかけて研究員として來ていたんです。七三年から所長に。

釜田 そうしたら本当に大変でしたね。

ムア ですからプレゼント・アット・ザ・クリエーションという言い方がありますね(笑)。

岡田 そうすると、つまり一九六八年から七二年までの。

ムア はい、数回の。あちこちで、学会でもいろんな人に会って、東海岸のニューヨークランドのカレッジの代表者とボストンで集まったり。その時、「日本、香

港、台湾でプログラムかセンターを作しましょう」という提案があったんです。

しかし私のように特に日本学の人間は、別に台湾や香港には興味を持っていませんから、ぼくらだけで日本でプログラムをつくらうかということで。話し合ったのは、コネディカット・カレッジのトム・

ヘイブンス、ラリー・オールソン、僕、

ピーター・フロスト、山下先生…。

釜田 そのころ、ミヤジ先生はすでにアメリカでこのプログラムののを見ていらっしやったわけですか。

ミヤジ いや、AKPとは直接かわっていませんが、私はちょうどオンリーブ

で日本におりましたんでね、レイと同じ年。ですからレイがAKPを作ることを、ときどき聞いておまして、同志社の学長にお目にかかりに來たことがあるんです、レイと一緒に。

ムア 七二年、山本学長でしたね。

ミヤジ 実はミドルベリー・カレッジのほうは、そのころは日本語のコースも何もなくったんです。いわゆるバックグラウンドがなかったから初めからは参加できなかつた。ですからミドルベリーの学

長が「日本語のコースをつくるのをどう思うか」と言うから、「お金損してもいいんなら作りなさい。お金を儲けなきゃいけないと思つたら、作らないほうがいい」と(笑)。しばらく作りませんでした。

言語習得だけのプログラムでは意味がない

釜田 ミヤジ先生は最初のそういう日本語教育に対してそれほどの熱意とか要望がなかつた時代と、それからいまの状況をずっと二十五年間ご覧になられてどうですか。

ミヤジ そのころミドルベリー・カレッジで始めれば、当然学生は集まつたと思います。ただ、その場合に例えば日本の歴史とか文学とか、そういう学科科目がないところへ言葉だけを作つても私は仕方がないと考えたので「作らない方がいい」と言つたんです。AKPのプログラムというの、私、そういう意味では外からずつと見てきて、やはりアメリカ全国でいちばんいいプログラムだと思ひますね。それはレイなんか非常に努力されて、こういうところまで育ててきて、そ



岡田 妙

大阪市生まれ。同志社大学卒業後、米国ハワイ大学、コロンビア大学、ワシントン州立大学大学院に学び、修士課程修了。'64年より同志社大学文学部助手。'68年ソルボンヌ大学修士課程修了。'73年ハーバード大学研究員、同志社大学経済学部教授（英語担当）を経て'87年より現職。英語科目の他、学際科目「ことばの科学」と「ジョイント・ワークショップ比較文化論」を担当。'75年から'87年までAKPの日本語を担当。

して言葉を中心にしてそれをほかの学問分野の科目が支えるという、そういう考え方でやってこられたから非常にいいと思うんですね。言葉だけのプログラムって意味がない。それはみんないろんなところへ、例えば上智とかICU（国際基督教大学）へ行って言葉だけでは勉強できるわけですけど、AKPの場合には言葉と、それから日本の歴史とか建築という、学科目が一緒になっているというのが非常に大切なことだと。

それからホームステイですね。今度私、応募者の面接をしたんですけど、結局応募者がほとんど異口同音に言いますことは、「AKPのプログラムはホームステイがあるから行きたい」と。それは非常に大切なことですね。

ムア 本当に大切です。

ミヤジ AKPの日本語プログラムというのは、おかげさまで非常に質の高い、いい先生方に担当していただいていますし、それからいわゆるビジティンクといえますか、フアカルティ・フェローという形でいろんな科目も教えますし、いろんな意味で貢献が大きいと思いますね。

ですから私の考える個人、いつも私、そういう考え方をするんですが、結局AKPのリベラルアーツのそういうプログラムでいちばん大切なことは、要するに人間として育つということですね。

ムア 教育の目的ですね。

ミヤジ ええ、教育の目的。リベラルアーツの教育の目的というのは、全人格をつくり上げることです。ですから例

えば日本語が上手になったとか、明治維新がいつ起こったか知っているとかが、そういうことよりは、人間全体として成長するということ。日本へ来て家族に入って、そして自分のそういう個人的な文化体験を広げるということがいちばん大切なんです。こっちへ来て日本が好きになるか嫌いになるかは個人の問題で、自分は日本が嫌いだという場合も、これこれだから嫌いなんだと言えるようであればいけないと思うんです。そういう意味では、やはりAKPというのは非常に大切なプログラムだと思います。

チェンバーズ AKPで二年間過ごして、そしてアメリカへ帰ってきますね。その一年間ただけ成長したかを見ると、いつも驚きますね。



Anthony Chambers

1943年カリフォルニア州生まれ。ボモナ大学卒業後、スタンフォード大学院にて M. A.、ミシガン大学院にて Ph. D. 取得。'71年～'75年アリゾナ州立大学助教授、'75年よりウエスレアン大学日本語・日本文学教授。著書に "The Secret Window: Ideal Worlds in Tanizaki's Fiction" 等、英訳には谷崎潤一郎著「痴人の愛」「吉野葛」「蘆刈」「武州公秘話」「少将滋幹の母」等がある。現在「源氏物語」の一部を英訳中。

ミヤジ それは驚きますね、とてもね。

ムア 子供として来て、大人として帰りますよ、普通はね。

岡田 ここにいる間でもたいへん変わって。タケモト先生がいつかおっしゃったけど、冬の間努力して積み上げて、春になったら花が咲くという、確かに人間としてもそういうところがあるし自信ができてくると思う。

ムア 自信もどんどん出てくる。

タケモト それは日本語が上手になるとか、日本のことをよく勉強して理解するようになるということもよくありますけれども、私にとっていちばんおもしろいのは、もう一度うちの大学に戻ってきたときの身体の振る舞い。まず私の研究室の中に入ってきたときのあいさつの仕

方、おじぎの仕方、そういうようなことが自信をもつてできるということが、これはなかなかいいと思います。

それと、対面が終わって、研究室を出るときに必ず「先生、お先に失礼します」(笑)というような、べつに日本語が上手というよりも、そういうようなあいさつができるというのはなかなかおもしろいと思いますよ。それはアメリカで日本語を学んでも、いわゆるテキストで学んでも、そういうようなことはなかなかできない。それは日本へ来てから、もちろんすぐには身につかないんですけども、九カ月、十カ月日本の経験を通して、そういうようなことができる。そこまでできるということは、上手に日本語で何かをしゃべるといっても、大きな成長で

はないかときどき思うんです。

岡田 自分をコントロールしたり、意識が変わってくるわけですね。

ムア そうですね、意識が変わりますね。タケモト まわりの空間のことも気にするようになったりね。それはおもしろいと思いますよ。

岡田 本当ですね。私はいつも英語のクラスにAKPの学生さんをお招きするんです。大体九月に来てちよつと落ちつかれて、十月の末か十一月の初めぐらいに教室へ来てもらう。そうすると一生懸命に自己紹介でも、おじぎをしたりしてやっておられる。同志社は四月から次の年度になりますが同じAKPの学生さんたちに五月、六月のころにまた来てもらいますね。今度は皆さん堂々とおじぎを

するんですよ、自己紹介でも。同志社の学生たちがびっくりするんです。

タケモト そうですね、九月にできなかったことをね。

岡田 堂々と日本式でやるでしょう。あ、立派だわ、というのが同志社の学生たちの感じなんです。

タケモト 今日も耳にしたんですけれども、やはり学生は九月に来て、全然人間らしくおじきでなくて、ロボットみたいな機械的なおじきをするんですけれども、日本人のまねして。ただ、十月、十一月になると、それがちよつと嫌になってアメリカ的なジェスチャーがまた出てくるんですけど、冬を越すと、今度は機械的じゃなくて言葉が出ると自然に体が動くというような。AKPにとって、そういうような経験も通して、アメリカに帰って日本のことを後輩に紹介してもらえれば、それはまあおもしろいと思います。

ムア 私共も実は日本語を使ったりなんかすると、体の動きが違ってしまう(笑)。チェンバーズ 発声が違うし。

ムア 本当に(笑)。

同志社での一年は 学生の価値観を変える

篠原 日本式の体の動きが身に付くほど本格的な留学というものは、参加した学生のその後どんな影響を与えますか。われわれも学生を海外の大学に送り出しています。AKPが二十五年という長い歴史をもっているしやるだけに、留学がどんな効果をもつのか、AKPの経験に対して深い興味をもっています。

個人的な話で恐縮ですが、仕事で時々アメリカの政府機関を訪ねますが、「アポイントメント・リストで同志社大学という名前を見つけたので懐かしくなって」と言っている。AKPが二十五年という長い歴史をもっているしやるだけに、留学がどんな効果をもつのか、AKPの経験に対して深い興味をもっています。

アメリカの政府機関を訪ねますが、「アポイントメント・リストで同志社大学という名前を見つけたので懐かしくなって」と言っている。AKPが二十五年という長い歴史をもっているしやるだけに、留学がどんな効果をもつのか、AKPの経験に対して深い興味をもっています。

タケモト それはもちろんいまムア先生もおっしゃったように視野が広くなると思うんですね。そして人との対面の仕方がまた変わってきて、自分の主張をじゃなくて、もうちよつと広くゆつくりと落ちついて聞けるようになる、学生みんなではないんですけどね。

岡田 あるAKPの学生が、もういまアメリカの外務省に入っている人ですけど、AKPにいたころに、何か自分が自分でなくなるような不安な気持ちとか、日本語や日本文化を習うにつれて、何か自分じゃなくなるような気がして不安だと言ったことがあるんです。日本の学生もときどき同じようなことを言うんですけど、英語を一生懸命に勉強すると、日本人じゃなくなるんじゃないかと。私はその心配は全然ないと言ったんです。それはちよつとキーボードで言えば、小さなオルガンに、もうちよつとキーボードが多くなつて、同じメロディを弾いても和音で弾けるようになるようなもので、表現の幅が大きくなるし、人間の幅が大きくなる。だから全然自分がなくなる心配はないと言ったんですけどね。と

でも納得したような様子でした。それから後に神戸の領事館へ赴任してきて、A K Pでの経験が生きたと思いますよ。私があるときビザをもらいに行ったら(笑)、いまのお話が出てきて、「やつ、いらっしやるって聞いていたら、来ていただかなくともいいようにちゃんとぼくがアレンジできたのに:」(笑)、そういうところがたいへん日本的でおもしろいと思いました、やっぱりコミュニケーションの幅が非常に広がったり。

チェンバーズ そうです、広くなりますよ。それから日本だけじゃないんですけど、外国で勉強すること自体は、結局アメリカのやり方だけではない、またいろんなやり方がある。アメリカのやり方は絶対的ではない。そして世の中は英語だけではない。日本語もちゃんとした言葉で、ある意味では英語よりいい点もあるということがわかる。だから学生の頭の中がやわらかくなるというか、フレキシブルになりますね。

岡田 英語文化以外にも興味深い文化があるという:。
チェンバーズ 今までやってきたやり方

だけではない、ほかにいろいろやり方あって、どっちがいいか関係なしに。

ムア ですから、こう言えばちょっとオーバーかもしれませんが、価値観念も変わってくると思いますね。

ミヤジ アイデンティティーのクライシスを通るって、非常にいいことだと思えます。

岡田 そうですね。それはA K Pの学生はアメリカの中にいますので、アメリカはやはり多民族社会ですから、比較的那いいうアイデンティティー・クライシスというのはみんな感じると思うんです。多くの日本人は多数の中にばかりいて、もちろん十代のときにティーンエイジ・クライシスというのもありますけれども、やはりそこところに一味足りないものがありますよね。だからA K Pの学生が一年間にいろんな段階を経験するときに、同志社の学生と一緒につき合うということは非常に価値がありますね。いろんなことを直観的に、感じるんですね。

釜田 いま、A K Pの一つの成果といえますか、プログラムの成果をお話し願ったわけですが、これは在学中に実際に海

外で一年間なり二年間勉強される学生の数というのは、今日のセミナーでもありましたように全体としてはそんなに多くはないというか、全員ではないですよ。
ムア 全員ではありません。

釜田 そうしますと、海外へ送るというプログラムと同時にそういう機会のない方、チャンスのない方の教育、今のようない成果を伴う教育というのはどういう配慮をなさっておられるんですか。

チェンバーズ ウェスレアン大学では、カリキュラム全体をもっとインターナショナルライズしようという努力はしていますけれども、なかなか難しいですね。特に自然科学になると難しくなります。自然科学を専攻している学生の海外留学はほとんど無理とっていいほど。

篠原 経済学もそうですね。

ムア 残念ながらね。

チェンバーズ ですから留学できない学生のためにも、カリキュラムをもっと国際的なものにしようという理想は持っていますけれども、現実はまだ別の問題で、なかなか難しいです。

釜田 ミヤジ先生、どうですか。ご覧に



Hiroshi Miyaji

1925年東京に生まれる。'52年京都大学卒、'61年同大学院よりスタンフォード大学大学院入学、'65年スタンフォード大学より博士号取得、オレゴン大学、ペンシルヴェニア大学、ミドルベリー大学等にて教鞭をとる。現在、ミドルベリー大学哲学言語学名誉教授、AKP同志社学生センター所長。

なっていて。

ミヤジ そうですね、いまチェンバース先生が言われたように、ミドルベリーも、いまいわゆるインターナショナル・スタディーズということ強調して、できるだけ海外へ出られるようにということを努力しているんですけども、特に自然科学系が、それから経済も含めて、一つの学部の間ゆる必修科目を非常に厳しく立てておりますからうまくいかないですね。そしてちょっとおかしな考えで私は反対なんです、要するに英語だけで行ったらいいと。自然科学の学生の場合には仕方がないから、外国語を勉強しないで、英語をもっていけといううな、そういう考え方をする人がありますけど、私はそれは植民地主義だと言っ

ているんです(笑)。そういう考え方はいかんと言うんですけど。ですからやはりいまチェンバース先生と同じような問題はあります、ミドルベリーでも。ムア アーモスト大学にもそういう問題があります。

岡田 同志社の場合は、AKPの加盟校への留学も含めて、留学する人は、とかく四年以上かかって卒業するということがあります、AKPの加盟校にはあまりそういうことはないんでしょうか。

ムア ええ、ないですね。エール大学は昔からそういう五年制のプログラムがあつたんですけど。

篠原 AKPの場合にはアメリカの大学におけるカリキュラムの一環としてプログラムが組まれているから、留学のため

に卒業が遅れるという問題は避けられるのではないですか。同志社の場合には、建前は在学留学の場合、四年で卒業できることになっているのですが、留学を本来のカリキュラムの一部とみなしてもらえない場合もあり、そのために卒業が延びるケースも少なくないのが実状です。

それと関連する点ですが、われわれがうらやましいと思うのは、AKPプログラムは、学生が在学しているホームインスティテューションでのカリキュラムの一環として注意深く準備されているというか、質の点でもよくできたプログラムだという印象を私はもっています。

岡田 四年半なり五年で卒業するという仕組みにはなっているんでしょうか？

ミヤジ ええ、もちろんそうできます。



A. Ronald Takemoto

1948年サンフランシスコ生まれ。カリフォルニア大学 (Irvine 校) 卒業後、龍谷大学大学院の修士課程修了及びスタンフォード大学博士課程修了。'83年より、ワイトマン大学で、日本語、日本文化に加え、古典、現代日本文学、また、日本の美学などを教える。現在、外国語、外国文学部長。'90年 Sears Roebuck Foundation Teaching Excellence and Campus Leadership Award 受賞、'94年 Thomas D. Howells Award for Distinguished Humanities Teaching 受賞。今年度より、AKP (Associated Kyoto Program) 常任理事長を務める。

ですから特にアメリカの大学生が日本の大学に、同志社のお世話になろうとする、といちばん困るのはやはり学年の違いですね。学年暦が違うから。アメリカの学生が日本の大学へ入ろうとすると九月ということになりますね。九月はもう後期でしょう。それだからそこがうまくいかないですね。それから、日本から今度アメリカの大学へ行こうとする場合にも、それで卒業がおくれるとか、そういうことを覚悟して来ないといかないという：

な配慮ができず、レディーメイド的な留学メニューになってしまおうという問題があります。同志社にいて日本の学生と同じ教育を受ける場合は別ですが、途中で一年だけ留学する場合には、留学中のカリキュラムが残りの三年間の本国での教育と一貫性を保っているという保証は何もない。その点、A K P は留学の一年間も三年間なり四年間のリベラルアーツ教育の一環としてカリキュラムを組んでいらっしゃる。そういう点が、われわれには非常にうらやましくもあり、また高く評価している点の一つですね。
(ムア氏所用のため退席)

同志社とA K P の将来

釜田 残りの時間で今後のこのプログラムの展望、あるいはより充実させるためには同志社との間でどういうことがありうるのか。日本研究というように、同志社側もこういう会合をしたことではないんですね。参加大学と同志社とでもっと協力すれば、京都という場所を使つての日本学というようなユニークなことができないのではないのか、何かそんな感じがするんですが。

ミヤジ 特にA K P の問題は、いわゆるフアカルティ・フェローとして来られる方の各科目がやはり京都という環境をできるだけ生かすというふうに考えてます

から、例えば建築にしても宗教にしても、それから歴史にしても京都にあるというのを最大限に活用しなければいけないので、それは非常に努力しておりますし、今度のコースのシラバスなんかでも、やはりみなそれを考えていますものね。

釜田 チェンバーズ先生、いかがですか。先生はディレクターを八九年、九〇年とおやりになって。

チェンバーズ そうですね、まずホームステイがどんなに大事か、きょう改めて考えさせられました。さつきホームステイの方々と会いましたけれども、その心の温かさといわれわれの学生に対する愛情をととても感じました。ですからホームステイはAKPの基本の一つだと思っています。

よく三本柱と言いますけれども、つまりホームステイ、日本語のプログラム、セミナーの科目、この三本柱の中でも、もしかしたらホームステイがいちばん大事なのかもしれないと思っています。それを今日日本に必要と感じました。

タケモト それと、今チェンバーズ先生がおっしゃった三本柱というものを独立

したものではなく、これは一つの屋根を支えているというようなその三本柱、その関係を強くすること。だから日本語の教育の中に、ホームステイのときの言葉遣いをどう生かすか、例えばある程度の京都弁を紹介するとか。また、ミヤジ先生がおっしゃったように、そういう選択科目のクラスに日本語の教育と、またホームステイとどういうようなつながりを持たせるか、そういうつながりをもうちよつと上手にこちらのほうのプログラムに取り込めばいいのかというようなこともこれからのAKPの、さらにいいプログラムをつくるための大きな課題だと思っています。これは前任のチェンバーズ先生からそれをもうちよつと考えてくださいと言われましたけれども、なかなかそれができてないので、まだ宿題として考えていますけれども。

釜田 岡田先生、長らくAKPにもかかわってこられて、いまの点とか、あるいはジョイントセミナー(※)も先生が担当していらつしやいますか。

タケモト ジョイントセミナーは一つの試みですね、いま私が言ったことの。

岡田 初めて私とAKPとおつき合いが始まりましたのは一九七五年なんですね。ちょうど私はアメリカから帰ってきたときに、日本語のクラスをお手伝いするという形でおつき合いが始まったんです。結局十二、三年AKPで日本語を教えさせていただきました。いい勉強になりました。

結局日本の学生が英語や英語の文化を学ぶのと、アメリカの学生たちが日本の文化を学ぶのとは、作業は同じなんですよ。あの賀茂大橋を渡るのに、東から西へ渡っても、西から東へ渡っても距離は同じだし、問題も同じだ。同じ橋を渡らなきゃいけない。ただ、見える景色が片方は大文字山が見えるし、片方は出町の交差点が見えるという、これが大きく違うだけで、作業そのものは同じだという感じが強くなりました。漢字とアルファベットということで見える景色が違うんですね。ホームステイの人たちもたぶんそういうことも感じると思うんですけどね。だから接触することによってお互いの持っている教育力とか、学生

(※) 3、4年次生のために設けられている学際科目。同志社大学の学生とアメリカからの留学生の合同クラスで、選考に合格した学生を対象にして、授業は後期に週2回、すべて英語で行われる。日米の宗教、文学、言語、教育、政治、芸術などについて討論する過程で、自国の文化を認識し、誇りをもった真の国際人の育成を目的としている。

い。

は学生同士いろんなことを直観的に学び取ると思うんです。ジョイントセミナーは、学生同士がグループ活動などを通じてお互いを教育し合う場所です。また教師の役割というのは学生が潜在的に持っている教育力を引き出す仕事というか、そういう場を設定して、最大限に学生の学び合う能力を引き出すということで、そういう意味では、A K P が同志社へ来てくださったということは非常にありがたいことだと思いますね。

篠原 このプログラムが二十五年も続いてきたというのは、やっぱりいいから続いているので、そんなに大きくフレームワークをいまの段階で変えなければいけないということを感じないくらい、ぼくはよくできているプログラムだと思うんです。われわれもこういうプログラムができればいい。十年前の座談会で、同志社でもこういうことを作れというサジェスチョンがあった。

釜田 ムア先生がおっしゃいました。篠原 確かにそういうサジェスチョンはありました。これまで作れなかったし、いま現実に作れと言われても非常に難し

い。もう皆さんがいろいろ指摘されたので付け加えることはあまりありませんが、

あえて言うなら、A K P の学生と同志社の学生がもう少し接触できるようにならないものか、という印象をもっています。

いま岡田先生がジョイントセミナーの話をされましたが、これは数少ないうまくいっている工夫の一つですね。ただ難を言えば、ジョイントセミナーも元はアメリカ人の学生を念頭に置いて作られたプログラムで、同志社サイドからみるとまだ不十分という感じででしょうか。せっかく一年も同志社のキャンパスに滞在するわけですから、もっといろんなシチュエーションで同志社の学生と接触できるような仕組みを作りたいですね。日米の学生がもっと接触できる機会が増えれば、両方の学生にとって、まだまだ意味のあることができる可能性が残っている。この点では同志社の方からいろいろな努力できる点がたくさんあるのではないのでしょうか。

その中で、A K P の学生が同志社大学のクラブ活動に参加しているケースもある

ります。これも非常にいいことだと思いますね。

もう一点付け加えるならば、留学期間中のケアだけでなく、前後のケアを工夫すると、もっと留学の効果が上がる可能性もあるかもしれません。京都の地で一年間学ぶという面では、先ほど言ったようにわれわれの目から見てうらやましいほどうまくやってらっしゃる。しかし、それ以外にアフターケアと、そんな言葉があるかどうか知りませんが、ピフォーケアも大切なのではないのでしょうか。

幸い、最近はEメールをはじめとして、いろんなエレクトロニクス・デバイスが簡単に利用できますから、留学の段階から同志社と協力態勢を組めると思います。留学を終えた後のアフターケアももちろん、いろんな形で協力できます。そうなれば、両方の学生にとって今以上にプラスになる、なにかいい仕組みが作れる可能性があるように思うのですが。タケモト 特にアフターケアのほうですね。八カ月、九カ月こちらで勉強して、ある程度日本語の能力が上がったレベル

で、やはりもっと同志社の学生といろんな意味でおしやべりできることは可能だと思えます。

日米関係の架け橋に

ミヤジ チェンバース先生、いま言われました同志社の学生との関係なんですが、同志社の学生の中でのAKPの認識度というのはどうなんですか。

岡田 それは十年前とは全然違います、学生はよく知っていると思います。それからクラブ活動もいっしょにやったりして。AKPの学生は九月に来て六月までいるんですけど、クラブで非常に活躍して、八月までいるような人もいますね。そうするとAKPの学生が初めて九月に

来たときには新入のメンバー、四月になると先輩になるんですよ(笑)、次の一年生が入ってきますから。それでAKPの学生は先輩扱いされて、日本の縦社会を実際に経験して。またクラブの面でも熱心だし、先輩になって、毎日のように田辺に練習に来ているAKPの学生もいらっしやいますね。ほんと頼もしいですね。学生同士はいい意味の接触があれば、非常に大きく関係が花開くと思います。また同志社の学生もAKPの先生方についていへんお世話になることも多くて、いろんな専門の先生がいっしょにいますから。個人的にいろんな接触をして教育していただいているというケースが多いと思います。ジョイントセミナーというような場所以外にもお世話になっていると

思います。将来ともその点よろしく願いたいと思います。そのアレンジの役割はやはり同志社側の篠原先生や釜田先生などから、いい情報を同志社の各方面に流していただいて、それぞれの場へ訪ねてきていただくなり、講演をお願いするなりというようなことがあってもよろしいかと思えます。

釜田 そうですね。

篠原 AKPのプログラムを通して学生が同志社にくるだけでなく、同志社もAKP加盟十五大に毎年六名の学生を送っています(資料③④参照)、そんな縁もあって、AKP加盟校から相当数の先生方が同志社大学をステーションにして研究をされておられます。またわれわれの方からもAKP加盟校で研究された経



篠原総一

1945年岡山市生まれ。
東京大学卒業後、シカゴ大学、ウ
ォーターラー大学留学後、'73年か
らウォーターラー大学講師、助教
授を経て、'78年より同志社大学教
授。専門は国際経済学。著書に『入
門日本経済学』(日本評論社)、『ア
メリカの高金利政策』(有斐閣)、
『交通政策の経済学』(日本経済新
聞社)、『ベンチャー魂』(PHP)な
ど多数。'95年4月より国際センタ
ー所長。



釜田泰介

1941年中国・旅順市生まれ。'67年同志社大学大学院法学研究科修了。'49年より法学部教授。法学部長、大学評議員、国際センター所長などを歴任。現在はアメリカ研究科長、アメリカ研究所長。専門は憲法。

験をもつ教員も多いわけです。これからもうサーチのレベルでもいままで以上に効果が上がる交流を進めることができればいいと思っています。

岡田 同志社でやってないような科目をAKPはかなり自由に、例えば今年も写真であるとか、建築であるとかというような科目があつて、同志社の学生もいろんな形でクラスメートとして恩恵を受けております。クラスメートになることによって、一緒に嵐山へ写真を撮りに行くとかいうような形が自然に出てきておりますのでね。今後とも学生たちとの交流を深めることと、AKPの先生方一人でも大勢の同志社の学生たちにお会いいただけるように、そういうアレンジを国際課のほうでも考えていただきた

いと思います。

釜田 そうですね。チェンバース先生とタケモト先生のお二人がこれからのAKPのプログラムを支えていかれる方だと思いますので、最後に夢をひとつ語っていただけたら。

(ミヤジ氏所用のため退席)

チェンバース 一つはいろんな形で同志社大学と加盟校と関係を強めることですね。学生交換だけじゃなくていろんな形で。さっきそういう話もありましたけど、これからはその話をもっと具体化して続けたほうがいいと思いますね。

岡田 AKPの学生はだんだんと増えてきているわけですね。

タケモト そうですね。はじめはだいた二十五人くらいでしたが今は四十人か

ら四十五人。それを増やすという予定とかはありませんけど。今度国際センターができたということで、篠原先生のおかげでいろいろとコミュニケーションがよくなつたと私は思うんです。その点、私の方は大変ありがたいことなんです、それができて、今度アメリカのほうでももっと事務的にいろいろと整理をして、これからいままでもより同志社とAKPのコミュニケーションがもっとスムーズにいけるようになると、いろんな意味でこのプログラムがよくなるんじゃないかなと思うんです。だから夢というよりも、そういうように少しずつ、このプログラムをいろんな面でちよつとだけでもよくするということ、それが私の願いなんです。



釜田 ありがとうございます。

私も拝見しますと、日本研究の学者の先生方、ライシャワー先生とかホールの先生とかケリー先生とかの世代の先生を第一世代と見れば、ムア先生とかスミス先生はその次の世代の方になるんでしょうか、そしてチェンバース先生はその次の世代、タケモト先生はその次でございますか。

タケモト いかがでしょうか(笑)。

釜田 第三世代か四世代……(笑)

タケモト 次になるかどうかわかりませんけれども。

釜田 恐らく私の感じでは、次の二十一世紀を支えられる第四世代の先頭を走っている方じゃないかというふうにお見受けしているんですが、きっとそのあとに続く若い世代が日米両方から出てくると思うんです。日米間に同じ問題をめぐってもいろいろな理解の違いというものがあるんですが、私の法律の分野でも同じルールを持っているのですが、それが実際には違ったように使われている、ときどき対立が起こるということがあるんです。しかし、いまの学生諸君

を見ていますと、日米どちらも非常に樂觀的なんです。これは時間の問題で、いずれ共通項を持った世代が必ず生まれてくると思っています。AKPのプログラムは、そういう意味で非常に大きな役割を同志社の中で果たしていただけるのではないかと期待している次第です。

岡田 十年前のシンポジウム的时候には、まだ「国際教育はなぜ人間教育の必要か」ということを言わなきゃいけなかった。昨日も今日も朝の会合に出ますと、どなたも国際教育はなぜ必要かというお話はなさらない。

チェンバース もう当たり前ですね。

岡田 必要なのは当たり前という前提で、どういう形の国際教育、非専門家のための国際教育、つまり半年でもいいんじゃないかと、語学にそんなに集中しなくてもいいんじゃないかとといったように、国際教育が必要なのはだれももう疑ってない時代になったと思うんですね。やっぱりこの十年間の変化というのは大きいとつくづく思いました。日本のほうは、まだ「国際化」というような言

葉がはやるぐらいですから、「国際化することは必要だ」ということを言う必要がまだあるのかもしれない。そういうところになんと違いを感じましたね。だから将来は国際化は当たり前だと、それが知識人の前提だというようになるまで、交流を通じて意識の幅を広げていかなくはないと思います。

釜田 そうですね。どうも先生方、ありがとうございました。今後ますますこのプログラム、同志社と加盟大学との間のきずなが深まりますことを祈念しまして、今日の座談会を終わりたいと思います。
(一九九七年三月二十九日
ハリス理化学館内

「卒業生ラウウンジ」にて収録)

Alumni satisfaction	SAT/ACT 25th-75th percentile	Freshmen in top 10% of HS class	Acceptance rate	Yield	Student/faculty ratio	Education expend. per student	Freshman retention rate	Graduation rate	Alumni giving rate
4	1210-1420	72%	20%	43%	8/1	\$22,227	97%	96%	63%
8	1250-1440	87%	30%	33%	9/1	\$23,715	96%	93%	57%
2	1240-1450	82%	27%	40%	9/1	\$22,929	96%	95%	67%
11	1180-1350 ²	80%	30%	39%	11/1	\$19,612	93%	92%	53%
14	1200-1390	75%	39%	33%	11/1	\$18,826	99%	91%	52%
20	1170-1360	83%	39%	43%	10/1	\$23,067	90%	88%	49%
16	1140-1340	62%	32%	40%	10/1	\$21,265	95%	91%	51%
33	1270-1420	74%	34%	34%	10/1	\$21,147	98%	89%	47%
17	1150-1350	71%	56%	37%	9/1	\$21,139	92%	85%	50%
50	1090-1290	59%	53%	42%	11/1	\$21,935	90%	87%	42%
3	1160-1390	70%	57%	33%	11/1	\$18,700	94%	89%	63%
80	1140-1360	67%	36%	37%	12/1	\$16,831	92%	89%	38%
42	1140-1320	58%	50%	32%	10/1	\$17,687	92%	87%	45%
13	1160-1370	64%	64%	28%	9/1	\$19,256	95%	82%	53%
35	1200-1340	77%	29%	42%	10/1	\$17,196	93%	89%	47%
12	1190-1370	71%	42%	27%	9/1	\$18,380	92%	85%	53%
21	1110-1280	53%	51%	32%	11/1	\$16,033	94%	90%	49%
66	1170-1330 ²	54%	34%	36%	10/1	\$17,165	96%	89%	40%
7	1020-1250	53%	65%	35%	10/1	\$19,425	95%	81%	57%
46	1105-1295	62%	40%	32%	12/1	\$16,845	96%	89%	43%
38	1160-1350	79%	37%	45%	11/1	\$18,386	96%	89%	46%
27	1110-1340	51%	66%	26%	11/1	\$18,341	91%	80%	48%
5	1030-1250	46%	51%	27%	10/1	\$18,289	94%	89%	58%
49	1080-1260	45%	59%	27%	10/1	\$19,360	93%	86%	43%
36	1064-1282	48%	49%	30%	12/1	\$15,620	91%	87%	47%

資料① AKP 加盟大学から同志社大学への年次別留学生数（人）

年	人数	年	人数	年	人数	年	人数
1972-73年	14	1973-74年	22	1974-75年	23	1975-76年	24
1976-77年	26	1977-78年	27	1978-79年	21	1979-80年	26
1980-81年	27	1981-82年	28	1982-83年	25	1983-84年	34
1984-85年	34	1985-86年	39	1986-87年	41	1987-88年	52
1988-89年	48	1989-90年	55	1990-91年	42	1991-92年	50
1992-93年	46	1993-94年	33	1994-95年	51	1995-96年	38
1996-97年	41	1997-98年	39	合計 906人			

資料② AKP 加盟大学のアメリカでの評価例（◎印が AKP 加盟大学——広報課注記）



BEST NATIONAL LIBERAL ARTS COLLEGES

The leaders among the 161 schools in this category

Rank/School	Overall score	Academic reputation	Student selectivity	Faculty resources	Financial resources	Retention rank
◎ 1. Amherst College (Mass.)	100.0	1	3	7	4	1
2. Swarthmore College (Pa.)	99.4	3	7	2	2	4
◎ 2. Williams College (Mass.)	99.4	1	1	9	11	2
4. Bowdoin College (Maine)	96.6	5	2	14	18	6
5. Haverford College (Pa.)	96.2	8	9	8	19	5
◎ 5. Wellesley College (Mass.)	96.2	3	5	4	3	21
◎ 7. Middlebury College (Vt.)	94.7	16	11	12	5	7
◎ 8. Pomona College (Calif.)	94.6	8	8	11	12	12
9. Bryn Mawr College (Pa.)	92.9	8	12	6	8	29
◎10. Smith College (Mass.)	92.2	8	23	1	6	25
◎11. Carleton College (Minn.)	91.0	5	13	38	26	13
◎12. Wesleyan University (Conn.)	90.7	5	10	18	24	18
13. Vassar College (N.Y.)	90.4	14	19	14	16	20
14. Grinnell College (Iowa)	89.9	8	24	17	14	30
15. Washington and Lee University (Va.)	89.7	25	3	10	44	16
16. Claremont McKenna College (Calif.)	89.6	16	14	22	12	27
17. Colgate University (N.Y.)	89.4	18	27	19	39	8
◎18. Bates College (Maine)	88.9	18	16	24	29	9
◎19. Colby College (Maine)	88.2	18	17	28	28	14
◎19. Mount Holyoke College (Mass.)	88.2	18	41	5	9	33
21. Davidson College (N.C.)	87.9	14	6	49	33	9
◎22. Oberlin College (Ohio)	85.4	8	30	28	20	40
23. Hamilton College (N.Y.)	85.1	25	52	26	27	15
23. Trinity College (Conn.)	85.1	25	46	16	16	22
◎25. Connecticut College	83.8	30	34	13	49	24

資料③ 同志社大学から AKP 加盟校への留学奨学生一覧

(1997年3月現在)

		学部 研究科	学科 専攻	年度	氏 名	留 学 先 大 学	進 路
1989 1990 年度	1	文	英文	1986	佐々江美和子	Smith College	日本エヌ・シー・アール㈱
	2	文	英文	1986	梅谷 とし子	Connecticut College	㈱ジェー・シービー
	3	文	文化	1988	吉田 淳	Oberlin College	Washington Univ. in St. Louis 在学中
	4	法	法律	1985	鶴木 健	Wesleyan University	㈱テレビ西日本
	5	経済		1986	熊城 太郎	Carleton College	伊藤忠商事㈱
	6	商		1986	小峰 あゆみ	Bucknell University	㈱さくら銀行
1990 1991 年度	1	文	英文	1988	岡根 知子	Smith College	大学院進學以降不明
	2	文	英文	1987	三岡 朋子	Wesleyan University	㈱三和銀行
	3	経済		1987	出口 雄一郎	Pomona College	ソニー㈱
	4	経済		1988	吉田 裕紀子	Connecticut College	松下電器産業㈱
	5	工研	機械	1989	宮本 博之	Bucknell University	住友金属工業㈱
1991 1992 年度	1	文	英文	1989	三井 秀子	Smith College	Stanford Univ. Doctor Course 在学中
	2	文	英文	1988	大司内美砂	Wesleyan University	富士通㈱
	3	文	英文	1989	八木 優己子	Williams College	朝日放送㈱
	4	法	政治	1990	藤田 弥生	Bucknell University	神戸大学国際協力研究科後期課程在学中
	5	法	法律	1988	江口 隆之	Carleton College	日本ガイシ㈱
	6	経済		1989	波田野恵美	Colby College	㈱ソニー・ミュージックエンタテインメント
1992 1993 年度	1	神		1989	増田 智行	Colby College	㈱滋賀銀行
	2	文	英文	1989	本田 真理	Smith College	アメリカ研究科修士課程在学中
	3	文	英文	1989	茨木 径子	Mount Holyoke College	Georgetown Univ. Doctor Course 在学中
	4	法	政治	1991	杉尾 透	Wesleyan University	外務省専門職員
	5	法	政治	1990	北條 稔	Wesleyan University	㈱時事通信社
	6	経済		1990	阪本 恭子	Middlebury College	ラオス大使館添付員 (94.9~96.9) アリゾナの The American Graduate School of International Management 在学中
1993 1994 年度	1	文	社会	1990	中込 幸子	Whitman College	㈱ NHK 情報ネットワーク
	2	法	政治	1992	木原 麗花	Williams College	㈱時事通信社
	3	経済		1992	平瀬 智子	Smith College	深見特許事務所
	4	経済		1990	高瀬 晶子	Wesleyan University	George Washington Univ. Master Course
	5	商		1990	安東 拓也	Wesleyan University	東芝 (国際部)
	6	工	電子	1991	中村 良江	Middlebury College	工学研究科修士課程修了後、日本 IBM
1994 1995 年度	1	文	英文	1991	金 陽子	Oberlin College	ニッタ㈱
	2	文	英文	1992	岡田 由紀子	Smith College	
	3	文	英文	1992	清水 奈緒	Wesleyan University	カメラマン修行中
	4	経済		1992	前田 幸子	Williams College	Yale Univ. Master Course 在学中
	5	商		1991	浅田 恵子	Bucknell University	㈱スガイ
	6	アメリカ研	アメリカ	1993	片桐 良朋	Smith College	アメリカ研究科前期課程修了後、 留學準備中

1995 1996 年度	1	文	英文	1992	細田 典江	Wesleyan University	伊藤忠商事㈱
	2	文	英文	1992	小林 祐子	Pomona College	ネスレ・マッキントッシュ㈱
	3	文	文化	1992	都築 晶子	Mount Holyoke College	公務員受験
	4	文研	心理	1994	木下 環	Williams College	留学準備中
	5	法	政治	1993	高見 真夕	Williams College	㈱京都ホテル
	6	アメリカ研	アメリカ	1994	鳥居 祐介	Wesleyan University	アメリカ研究科後期専門学
1996 1997 年度	1	文	英文	1993	川西 順子	Oberlin College	現在留学中
	2	文	英文	1993	小川 寛大	Williams College	//
	3	文	英文	1994	野崎 智子	Pomona College	//
	4	法	法律	1994	下里 真吾	Williams College	//
	5	法	法律	1994	夕田 真千子	Middlebury College	//
	6	法	政治	1993	田口 武生	Wesleyan University	//

資料④ 同志社新島基金・新島スカラーシップによりアーモスト大学で学んだ同志社大学出身者と進路

同志社 新島基金	1.	斎藤文彦	1984—86	元国連職員・現在龍谷大学国際文化学部専任講師
	2.	榊原理智	1986—88	Univ. of Michigan 大学院ドクターコース在学中
	3.	吉岡いずみ	1990—92	Boston University 大学院 Ph. D. コース在学中
	4.	長野純子	1992—94	日本チバガイギー株式会社
	5.	市川裕康	1994—96	The Daily Yomiuri 記者
	6.	伊賀三夏	1996—	アーモスト大学在学中
新島 スカラー シップ	1.	榊原胖夫	1954—56	帝京平成大学教授、同志社大学名誉教授
	2.	児玉実英	1956—58	同志社女子大学学長・教授（文学博士）
	3.	金田弘光	1958—59	Professor Emeritus, Univ. of California at Davis (Ph.D.), 同志社大学大学院アメリカ研究科教授・同大学経済学部教授
	4.	藤倉皓一郎	1959—61	早稲田大学法学部教授 (LL. D.), 東京大学法学部名誉教授
	5.	澁谷昭彦	1961—63	同志社大学経済学部助教授
	6.	横本 勝	1963—65	同志社高等学校教諭
	7.	岡島貞一郎	1965—67	UNESCO バリ本部事務局長官房上級連絡官（対外関係）
	8.	小沢善雄	1967—69	国吉康雄美術館顧問
	9.	海保和弘	1971—73	海保商事株式会社（代表取締役社長）
	10.	秋山卓男	1973—75	長銀投資顧問株式会社投資調査部（部長）
	11.	宮川成雄	1975—77	同志社女子大学教授
	12.	立木智子	1977—79	横浜市立大学商学部助教授
	13.	佐藤美彌子	1979—81	広島女学院大学助教授
	14.	池田 茂	1981—83	自営業
	15.	河合博子	1983—85	Stanford Japan Center, Kyoto
	16.	奥田かな	1987	舞踊家（名義名：藤間勘礎奈）
	17.	物部ひろみ	1989—91	University of Hawaii 大学院アメリカ研究科ドクターコース在学中
	18.	酒井俊恵	1991—93	(株)イマ・コーポレーション フォトニカ事業部
	19.	山本 彩	1993—95	同志社大学大学院アメリカ研究科在学中
	20.	岡村恭子	1995—	アーモスト大学在学中
	21.	安田修子	1997—	アーモスト大学在学（予定）